

# 金沢市立鞍月小学校

本校は、環状道路の設置に伴い土地が開発され、近年、人口が増加し、児童数も年々増えている。現在は、金沢市においても、有数の大規模校となり、全校児童は781名、教職員は49名である。校区には、商業施設も多くなってきたが、犀川の上菊橋上流を取入れ口とした鞍月用水が校区を流れ、稲作や梨の栽培が行われている。

本年度もユネスコスクールとして、3年生が地域の特産品である「梨」の栽培について、4年生はごみや水など環境問題の学習を、5年生は「合鴨農法での稲作」について、6年生は「金沢学」に取り組んでいる。地域の自然・伝統文化・人々の絆を生かした学習を通じて、子どもたちの豊かな心の育成をめざしている。

## くらつきの自然・伝統・人を「絆」で学ぶ ～広げよう くらつきの和～

### 1 ユネスコスクールとしての取り組み

#### (1) 『梨博士になろう 3年生』

梨は、昔から鞍月地区特有の作物であり、地元の生産者によって栽培されてきた。本校では、3年生が地元の生産者の方から、長年にわたり指導を受け、総合的な学習の時間に、梨栽培を題材に学習を行ってきた。

学習は4月に、生産者の方との出会いからスタートした。人工授粉、虫取り、摘果、肥料まき、袋かけ、収穫、枝の剪定などの一連の作業を生産者の方から直接指導を受け、体験した。質問をしたり、説明を聞いたりする中で、生産者の方の思いに触れてきた。

「梨栽培」を通して、「地元で生活してきた人々の思い」を学んできた。感謝の会では、生産者の方に御礼の気持ちを伝える会を開き、交流した。また、梨の栽培学習を通して、全校児童や保護者との交流も行った。収穫後は、採れたての梨を全校の児童にも配り、各クラスから、「おいしい梨をありがとう」とお礼の言葉を届けられた。保護者に向けて梨の販売活動も行った。子どもたち自身でお店を運営し、保護者と交流しながら自分たちが収穫した梨を販売した。鞍月フェスティバルでは、梨栽培で学んだことを、全校に向け様々な形で発表を行った。



3年生 梨のふくろかけ作業

#### (2) 『ぼくらの鞍月 環境と伝統を学ぶ 4年生』

4年生は、地域全体に目を向け、地域の環境問題に目を向ける学習をした。社会科の学習で、リサイクルプラザを見学した。その後、「めざせエコタウン鞍月」と銘打って、「水」「ゴミ」「電気」のテーマから自分が興味を持ったものを選び、調べ活動を行った。節水、リサイクル、太陽光発電などについて調べ、学習したことを鞍月フェスティバルで異学年や保護者に発表した。

また、「偉人に学ぶ金沢『絆』教育推進事業」の一環として、石川県伝統産業工芸館へ行った。たくさんの「本物」の伝統工芸品に出会い、金沢の伝統工芸について興味を持つことが出来た。その後、「ふるさとモット学び塾」として、石川県伝統産業工芸館の方を招き、詳しく話を聞いた。見学してわかったこと、調べ活動でわかったことなど学習したことを工夫しながら新聞にまとめ、学年で交流した。



4年生 異学年への学習発表

### (3)『稲の栽培をとおして食を学ぶ 5年生』

5年生は、地域の方からの助言、指導の下、学校近くの田を使用して「合鴨農法」を体験した。年間を通して、田おこし、代掻き、田植え、草取り、稲刈りなど、実際に指導を受けながら学習を進めてきた。いつも食べている「ごはん」ができるまでに、様々な仕事があることや、さまざまな人の手によってもたらされていることを、地域の方とふれ合いながら学んだ。収穫した米で、保護者とともにご飯を炊き、食するということも取り組んだ。地域の方から、直接話を聞いたり、指導を受けて作業をしたりすることで、「食」の大切さを改めて感じた。



5年生 米の収穫

### (4)『金沢博士になろう 6年生』

6年生は、自分たちのまち「金沢」について、さまざまな視点で学習を積み重ねた。特に歴史的な建造物や名所、伝統芸能については、自分で調べたいテーマを決め、自主的に取り組んでいった。学習発表会では金沢城、兼六園、尾山神社など、金沢市の有名な場所について、能や加賀万歳、素囃子など、伝統芸能について、異学年や保護者に発表した。夏休みにはジュニア金沢検定を全員が受験した。さらに、キャリア教育では金沢で働く「職業人」を招いて、それぞれの仕事の大変さや喜び、そして誇りについて学んだ。ふるさと「金沢」を見つめ直すことで地域を大切にす心の育成を図った。



6年生 異学年への学習発表

## 2 成果と課題

どの学年も、総合的な学習の時間を中心に学びを積み重ねてきた。学校の中だけ、子どもたちだけの取り組みにならないように、地域の方の協力も得ながら、どの学年も体験的な学習を充実させてきた。特に、3年生の学習では、鞍月特産の梨の栽培から販売までしていくなど、地域の方の協力を得ながら、継続的に体験的な学習を行うことができた。その中で、地域の方からの温かい声掛けをもらい、認められる喜びを感じてきた。さらに、地域の方の思いにも気づくことができるようになってきた。学びの中から人と人のつながりの必要性も感じ取ってきた。

4年生の学習では、自分が興味を持ったものを選び、調べ活動を行ったことで、環境への意識が高まった。特にゴミ問題については、自分たちの身の回りからゴミを減らすということで、クラスの中でゴミを減らす活動が行われるなど、自分たちの身近な問題として考えるようになった。

6年生では、地域の方と直接関わって、金沢の良さやさまざまな仕事について、見聞きし学ぶことで、知識の理解だけでなく、金沢の良さを広め、地域に貢献することの大切さや自分のこれからの生き方について考えるなど、これからの社会で生きていくために必要なことを体験的に学ぶことができた。

このように、体験的な学習を充実させることで、地域文化の理解、自然、環境といった「持続可能な社会づくり」につながる学習をすすめることができた。

今後の課題は、体験的な学習をするだけではなく、学んだことをどう生かしていくかである。特に今年度の課題として考えられるのは、「発信」と「地域への貢献」である。

発信に関しては、体験的な学習が充実していても、その体験を個々がまとめる形で終わることが多くなってしまっている。学習フェスティバルという場で、他学年や保護者に発信することはできた。しかし、それだけではなく、例えば地域のよさを広めるために、他学校と交流することや地域が抱えている困難について地域の方々と話し合うなど、自分たちが学んできたことを発信する場を設定することも考えられる。自分たちの中だけで終わるのではなく、「自分たちから発信する」ということを意識させ、今後は取り組ませていくことも考えなければならない。そのために、発信する場を設定するということが課題として、今後取り組んでいきたい。

地域貢献に関しては、「自分たちにできることを考える」という社会貢献の面で思考をする場を、意識的に設けていくということがある。地域のよさととどまらず、地域が抱えている問題にも目を向けさせ、自分達にできることという視点で学習をする場面を設定できるように、指導計画などに位置づけていく必要がある。教師もこれまで以上に、この視点を意識して取り組んでいくことが課題となる。